

# 頑張る 農業法人

「近い将来には高齢化で休耕地が増えてしまいう。法人が農地を預かって地域農業を守っていき

たい」と話す南丹市八木町日置の農事組合法人「京都農産」代表理事の浅田均さん(53)。府内でもいち早く親族3人で法人を立ち上げた。希望者の農地を預かり水稲育苗や米、野菜の生産・販売に取り組んでいる。

その後、JAグループ京都が2003年度から進めてきた農業経営の法人化の取り組みに対応して、「法人化で信用度が高まる」とメリットを感じ、親族の3人が役員となり04年3月に農事組合法人「京都農産」を設立した。繁忙期には最大で8人の期間事業協力者を雇用する。

日置地区は同町中部にあり、平たんな水田が広がる。同地区は約65戸のうち55戸が農家だ。浅田さんの両親は40数年前には、当時としては大規模な酪農家だった。浅田さんは大学卒業後、大手企業に10年間勤務し退職。「どこかに再就職するの

でなく、何かをつくらう」との思いで友人と農作業受託の会社を設立し、近隣の市町で水稲育苗と作業受託をしてきた。現在、JA京都から水稲育苗を受託し、ハウス10棟と露地30㍎で、コシヒカリなど7品種、2万5000箱を育苗する。また地元農家から預かる水田8㍎で米を生産している。

## 農事組合法人 京都農産

南丹市 八木町



ハウスでの稲育苗を控える浅田さん

「農地を守る」先駆者

### 稲育苗と水田の預託経営

米が収穫されると消費者から評価を得ている。さらに、みず菜、九条ねぎの生産・販売にも挑んでいる。

浅田さんは「米価が下がりが経営も厳しいが、費用を切り詰めて経営維持をしている」と話す。「地元農家の多くが近い将来高齢化し、農地を預けた人が増えるだろう。農業をやる気のある人を研修生として受け入れ、後継者として育成していくことも考えていきたい」と前向きだ。

▽法人所在地 南丹市八木町日置西下里6。電話 0771(43)0220。